編集後記

◆ 梅雨の季節に入りました．中・四国から九州地方にかけては集中豪雨による被害が報じられている一方，関東地方では一向にそれらしくありません．そこで不安になるのは盛夏時の水不足です．

海洋気象観測によれば，今年は赤道太平洋の西側で海水温の高いラ・ニーニャ現象が認められるそうです．すっかり有名になったエル・ニーニョ現象の対語で，東太平洋のペルー沖ではなく，反対側のミクロネシア海域が高水温であることを示しています．併せて，インド洋の海水温にも，西部で高く東部で低いダイポール・モード現象も発生しているのだそうです．この二つの現象が重なると太平洋高気圧の勢力が異常に強まり，夏の日本はカラカラ天気に見舞われて大渇水に陥ると懸念されています．事実，1994年の異常渇水は，このダブル現象によって引き起こされたものといわれているのです．

首都圏の水瓶である奥利根水系の貯水量は，今のところ80％以上を確保しているそうですが，降水量がこの先も乏しくなれば，猛暑が予想されているこの夏への不安は募ります．景気が思わしくないところへ水不足が加われば，いかな首相の人気も干上がってしまいかねません．

◆ さて，本号の主な内容は，ポルトガルに産する花崗岩類についての解説，地形データを三次元表示で可視化するプログラム作成の試み，炭素同位体による環境解析に関する最近の研究動向の紹介などです．

専門的には広い分野の話題が並びましたが，それぞれの著者の工夫により，専門外の読者にも理解し易い内容となっています．一読していただければ，新しい知見に目覚めるヒントが，そこここに散りばめられていることに気づかれることでしょう．

◆ 以下，つくば科学フェスティバル2000の様子，インド地質調査所150周年記念式典への参加報告，深部地質環境センターが行った地質巡検記，5万分の1「松之山温泉」地質図幅にまつわる話題と，地質調査所から地質調査総合センターへの過渡期の活動紹介が続きます．

産総研の発足により新たに生まれた深部地質環境センターでは，構成員の親睦と地質に不慣れな研究員の研修を兼ねて，地質巡検を実施しました．結果は大成功だったそうで，その様子を本号に寄せています．業績主義の導入によって研究者間のギスギスが心配される中で，こうした試みが人間らしい研究環境づくりに役立ってくれることを期待したいものです．

（遠藤祐二）

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二
副委員長：谷田部信郎
委　員：磯部一洋・七山　太・中島　隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター　地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1−1−1
Tel. 0298−61−3754
Fax. 0298−61−3569

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第562号　2001年　6月号
定価￥785（本体価格￥748）〒実費
2001年6月1日　発行
編集　産業技術総合研究所
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8　〒102-0073
Tel.（03）3265−0951（代表）
Fax.（03）3265−0952
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号
印刷　株式会社　エアフォルク

© 2001 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります．また，最寄りの書店でも注文できます．